

防災教育と連携した道徳教育の授業開発 Lesson Development in Moral Education integrated with Disaster Education

藤井 基貴^{1*}
FUJII, Motoki^{1*}

¹ 静岡大学教育学部

¹ Faculty of Education, Shizuoka University

東日本大震災を受けて、全国の教育機関において防災教育への関心が高まっている。今回の震災において現実的な課題として浮き彫りになったのは、公共インフラおよび住宅環境といったハードウェアの整備だけでなく、各機関における防災プログラムづくりおよび地域を巻き込んだ避難訓練の在り方といったソフトウェアの見直しであり、さらにいえば、緊急事態に対応できる人間の判断力および行動力といったヒューマンウェアをいかに育成できるかということであった。

静岡大学教育学部藤井研究室では2011年4月より、静岡大学防災総合センターと連携して、「静岡県における防災および災害対応のための道徳教育プログラムの研究」を進めてきた。本研究のねらいは、「防災」と「道徳」を結びつけた「防災道徳」の教材および授業を開発し、災害時において自分で正しく行動できる人材を育成するための教育実践を提案することにある。

日本の小中学校のカリキュラムは「各教科」、「道徳」、「特別活動」、「総合的な学習の時間」の4つに区分されている。現行の小学校の学習指導要領をみると、防災に関する内容は「各教科」の社会および理科に含まれている。したがって、社会や理科といった教科のなかで児童生徒が防災についての一定の知識を習得することは可能といえる。しかし、災害時における思考力や判断力を育成するためには、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の活用および全教育課程を通じた連携の構築が必要となる。

そのなかで道徳教育については、価値伝達型の授業スタイルが主流となってきたこともあり、災害時の美談を教材化することはあっても、災害時における思考力や判断力の育成に資する教材や授業案の開発はほとんどなされてこなかったのが実情といえる。本研究においては、新たな防災教育の実践手法として「モラルジレンマ」と呼ばれる授業スタイルに注目してきた。モラルジレンマ授業とは、道徳的価値の葛藤を含んだ資料を児童生徒に示し、討議を通して児童生徒の判断力の形成を目指すものである。

授業実践は二時限で構成され、第一時限に災害時において判断に迷う状況について考えさせるジレンマ授業を行い、第二時限でジレンマに陥らないために日常的にどのような備えが必要かを考えさせる「ジレンマくだけ」授業を行った。開発した教材および授業案はこれまでに15種類あり、学生による授業実践をへて、現在は現職教員による教材の利用および改良が進められている。

本報告では、これまでの研究成果と課題を紹介するとともに、既存の学校教育のカリキュラムのなかで防災教育をどのように位置づけていくことが可能なのか、学校の全教育課程を通じて防災教育にいかに体系的に取り組むことができるのか、といった課題についても検討を加えてみたい。

キーワード: 防災教育, 道徳教育, モラルジレンマ

Keywords: Disaster Education, Moral Education, moral dilemma